

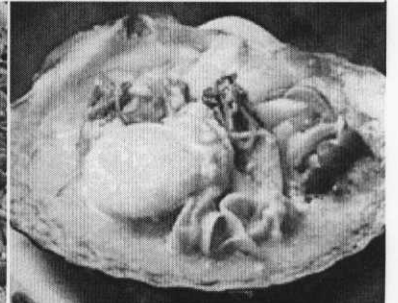
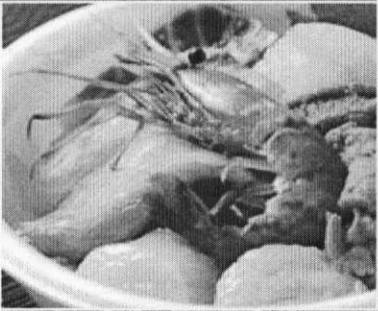
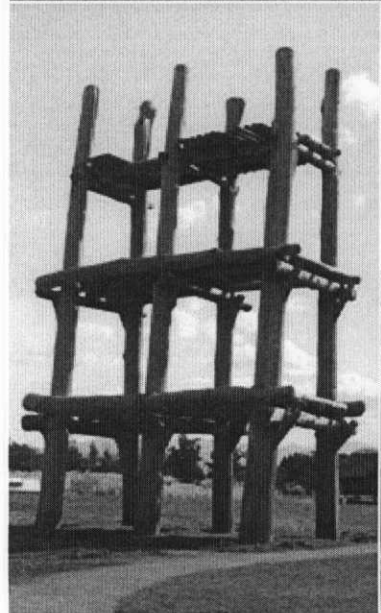
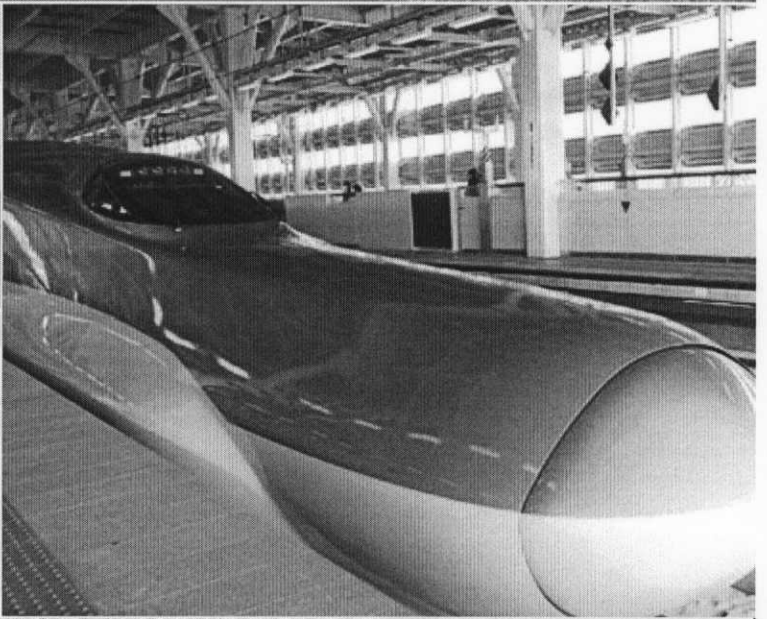
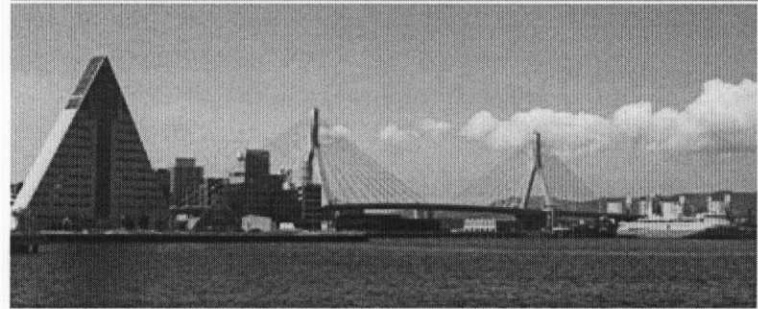
# 青森市新総合計画

— 元気都市あおもり 市民ビジョン —



## 抜粋

基本構想・前期基本計画



# 青森市新総合計画—元気都市あおもり 市民ビジョン—のあらまし

## 計画の構成と期間・役割

「青森市新総合計画—元気都市あおもり 市民ビジョン—」は、「基本構想」と「基本計画」の2つで構成しており、それぞれの計画期間と役割は次のとおりです。

### 基本構想

#### ●目標年次

平成 32 年度(10 ヵ年)

#### ●役割

長期的・総合的な視点から効果的・戦略的なまちづくりを展開していくため、多様なまちづくりの主体と議会、行政が協働により目指す共通の目標として、都市の総合力発揮に向けた道筋を示す、本市のまちづくりにおける最上位指針であり、本市の将来都市像やその実現に向けた施策の方向性などを示しています。

### 基本計画

#### ●計画期間

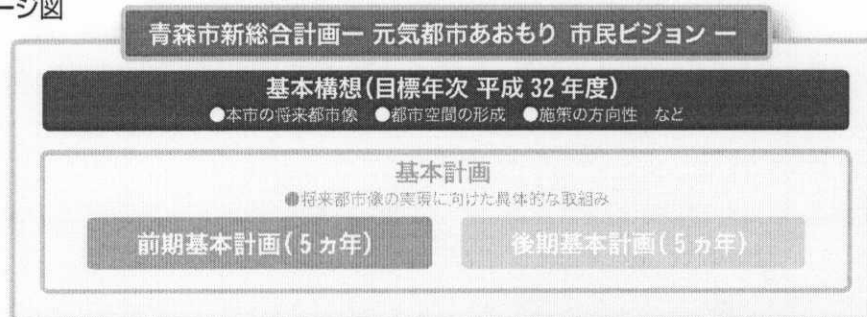
計画期間を5ヵ年とする前期基本計画及び後期基本計画によって構成しています。

〔 前期基本計画 … 平成 23 年度～平成 27 年度 〕  
〔 後期基本計画 … 平成 28 年度～平成 32 年度 〕

#### ●役割

基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けた具体的な取組みを示しています。

### イメージ図



## 計画の特徴

### 【本市の現状や課題に対応する計画】

本市の概況や地域資源といった特性を踏まえるとともに、人口減少・少子高齢化の進展をはじめとする主要課題や分野ごとの現状と課題に対応する手段を施策として示す、課題解決型の計画です。

### 【『元気都市あおもり・リーディングプロジェクト』を設定】

元気都市・あおもりの実現に向け、喫緊の課題などに的確に対応し、より力強く本計画を推進していくため、先導的な役割を果たす、いわゆる重点プロジェクトとして5つのプロジェクトを設定しています。

# 基本構想

2011-2020



青森市立造道中学校1年 佐藤 花保さん

## 「自然豊かな青森市」

「10年後の未来の青森市」 絵画コンクール 中学生の部 最優秀賞  
(学校名、学年は平成21年度)

### 3 都市空間の形成

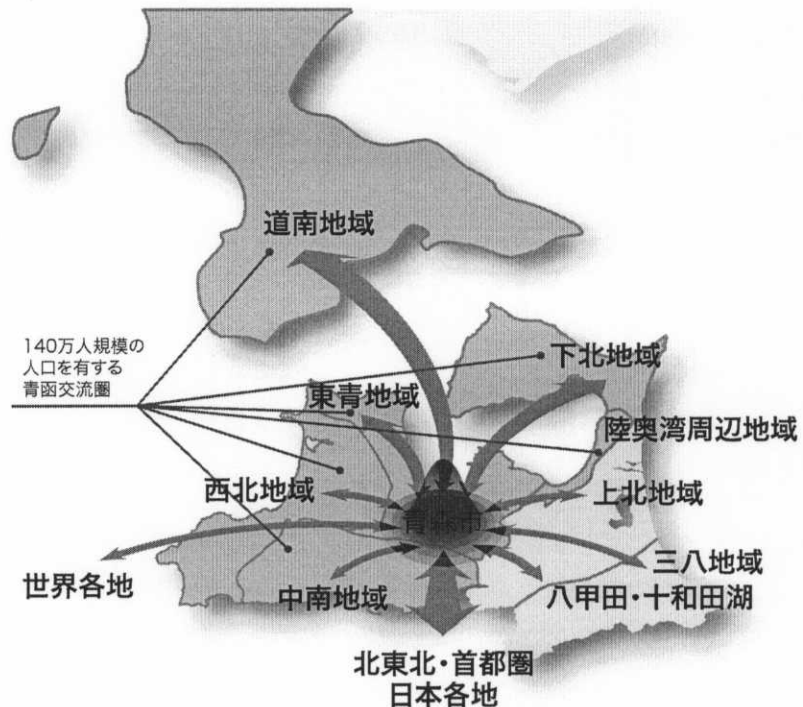
市民生活や産業・経済活動などの基盤となる都市空間の形成に当たっては、本市の特性や時代の潮流などを踏まえ、本構想に掲げた将来都市像を着実に実現していくため、次の考え方に基づいて、機能的で魅力あふれる空間整備を推進します。

#### (1) 都市づくりの基本的な考え方

##### 【広域交流拠点】

青森県の中央に位置するという地理的優位性をはじめ、北海道との結節点であることや、国内のみならず世界各地とつながる広域交通の要衝としての特性、特に、東北新幹線新青森駅開業及び北海道新幹線開業による交流圏の拡大などの効果を活かし、広域交流拠点にふさわしい機能を発揮し、青函交流圏の一体的な発展を牽引する都市づくりを推進します。

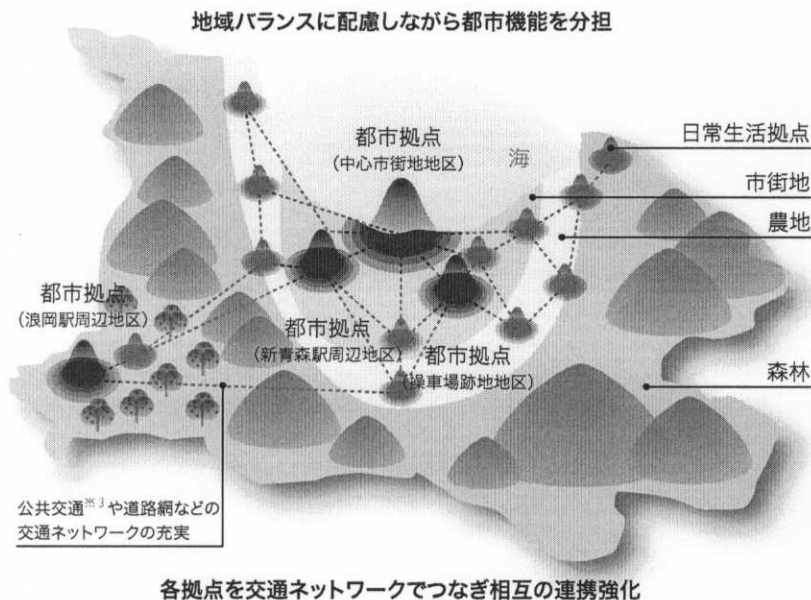
##### ■広域交流拠点のイメージ図



## 【人と環境にやさしいコンパクトシティ※<sup>1</sup>】

本市の核である中心市街地※<sup>2</sup>地区をはじめとする都市拠点や、日常生活の拠点である各地域それぞれが地域特性に応じた機能を分担する、バランスのとれたコンパクトなまちづくりを進めるとともに、それぞれの拠点を交通ネットワークでつなぎ相互の連携強化を推進します。

### ■ 「人と環境にやさしいコンパクトシティ」のイメージ図



## 人と環境にやさしいコンパクトシティ

#### 用語解説

※<sup>1</sup> [コンパクトシティ]

市街地の拡大に伴う新たな行財政需要の抑制、既存ストックの有効活用を基本とした効果的・効率的な都市整備、市街地の周辺に広がる自然・農業環境との調和など、地区の特性に応じた土地利用の方針。

※<sup>2</sup> [中心市街地]

高次な都市機能が集積し、交流、業務、商業、生活などの拠点であり、にぎわい機能を有するコンパクトシティを牽引する地区。

※<sup>3</sup> [公共交通]

鉄道、路線バス、タクシー、航空機、船舶など、不特定多数の人が利用する交通。

## (2) 都市拠点・日常生活拠点整備の基本方向

### 【都市拠点整備の基本方向】

本市の発展を支える都市拠点として、「中心市街地地区」、「新青森駅周辺地区」、「操車場跡地地区」及び「浪岡駅周辺地区」の4地区を位置づけ、それぞれの役割に応じた能力を最大限に発揮し、その相乗効果によって、本市の魅力をさらに向上させる地区形成を進めます。

#### ① 中心市街地地区

商業、業務、都心居住、交流などの高次な都市機能が集積した交流拠点として、《本市はもとより県都の顔》にふさわしい地区形成を進めます。

#### ② 新青森駅周辺地区

県内他都市、道南地域とを結ぶ《広域交流の玄関口》としてふさわしい地区形成を進めます。

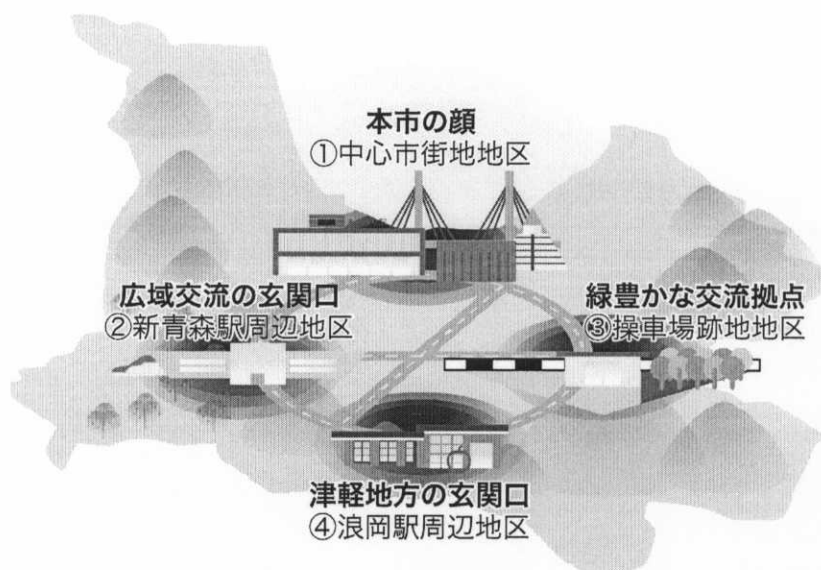
#### ③ 操車場跡地地区

鉄道新駅などの交通施設整備を進めるとともに、地球環境に配慮した「青い森」を象徴する《緑豊かな交流拠点》として、低炭素型の先導的な地区形成を進めます。

#### ④ 浪岡駅周辺地区

津軽地方の都市との近接性を活かした《津軽地方の玄関口》としてふさわしい地区形成を進めます。

### ■ 都市拠点のイメージ図



### (3)土地利用の基本方針

本市の地域特性をはじめ、人口減少・少子高齢化の進展への対応や、自然環境との共生などの時代潮流のほか、本構想における「都市づくりの基本的な考え方」及び「都市拠点・日常生活拠点整備の基本方向」を踏まえ、次の基本方針に基づいて、効率的で計画的な土地利用を進めます。

#### 基本方針

##### ①既存ストックの有効活用

これまでの投資により蓄積された道路、下水道、公共施設などの社会資本ストックを有効活用します。

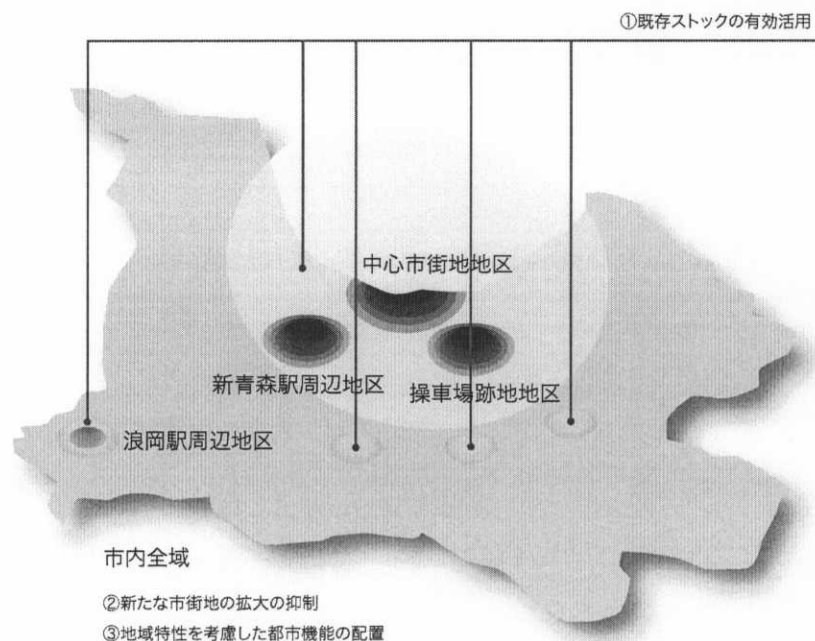
##### ②新たな市街地の拡大の抑制

土地の有効・高度利用などを通じ、既成市街地の再生・活性化を促進し、新たな市街地の拡大を抑制します。

##### ③地域特性を考慮した都市機能の配置

各地域が持つ地理的特性（中心部や郊外部など）や機能的特性（港湾、鉄道駅など）を最大限に活かすことができる都市機能の配置を推進します。

#### ■土地利用のイメージ図



#### (4) 交通体系の整備方針

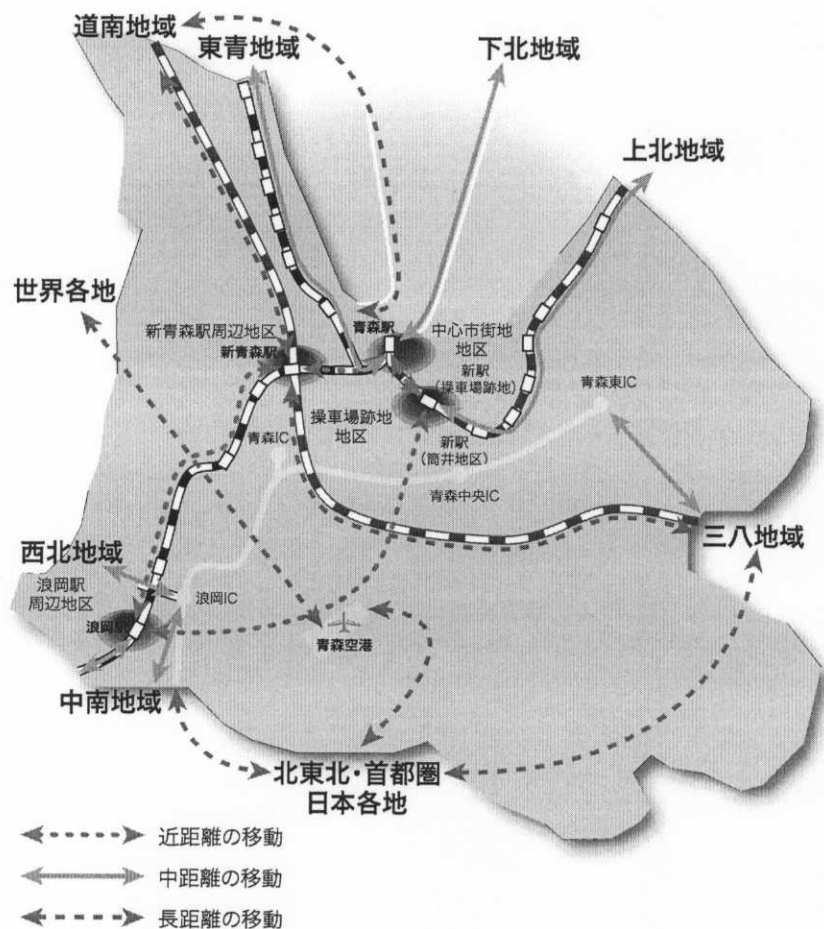
本構想における「都市づくりの基本的な考え方」及び「都市拠点・日常生活拠点整備の基本方向」を踏まえ、次の基本方針に基づいて、広域交通と都市内交通が有機的に連携した誰もが円滑に移動できる交通ネットワークの整備を進めます。

#### 基本方針

##### ① 高速交通網を活用した広域交通ネットワークの充実

国内外との交流人口の拡大や物流の活性化に向け、新幹線、高速道路などの高速交通網をはじめとする、道路、鉄道、空港、港湾を活用した広域交通ネットワークの充実を図ります。

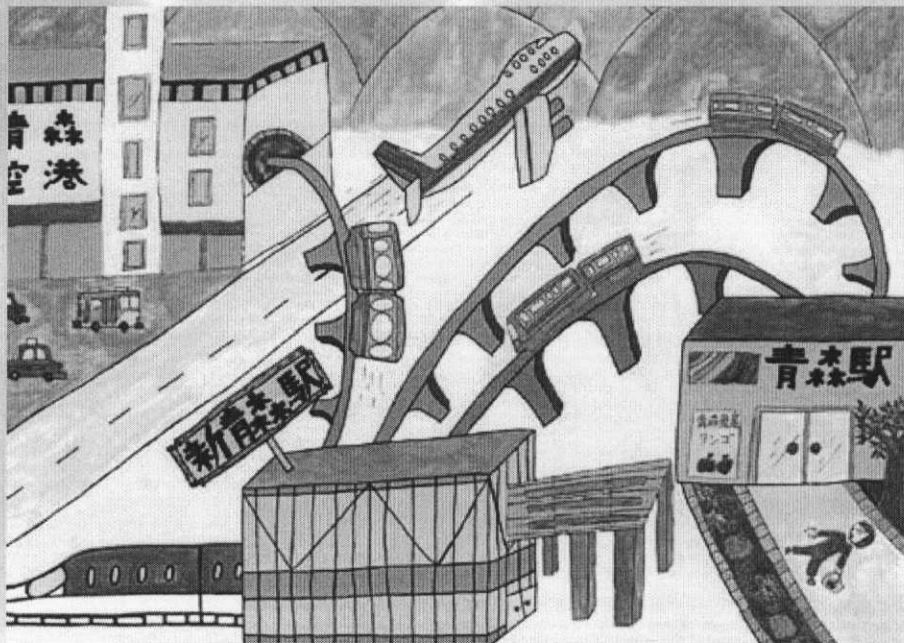
#### ■ 広域交通ネットワークのイメージ図





# 前期基本計画

2011-2015



青森市立造道小学校 6年 横内 佑衣さん

「輝く未来のかけ橋モノレール」

「10年後の未来の青森市」 絵画コンクール 小学生の部 最優秀賞

(学校名、学年は平成 21 年度)

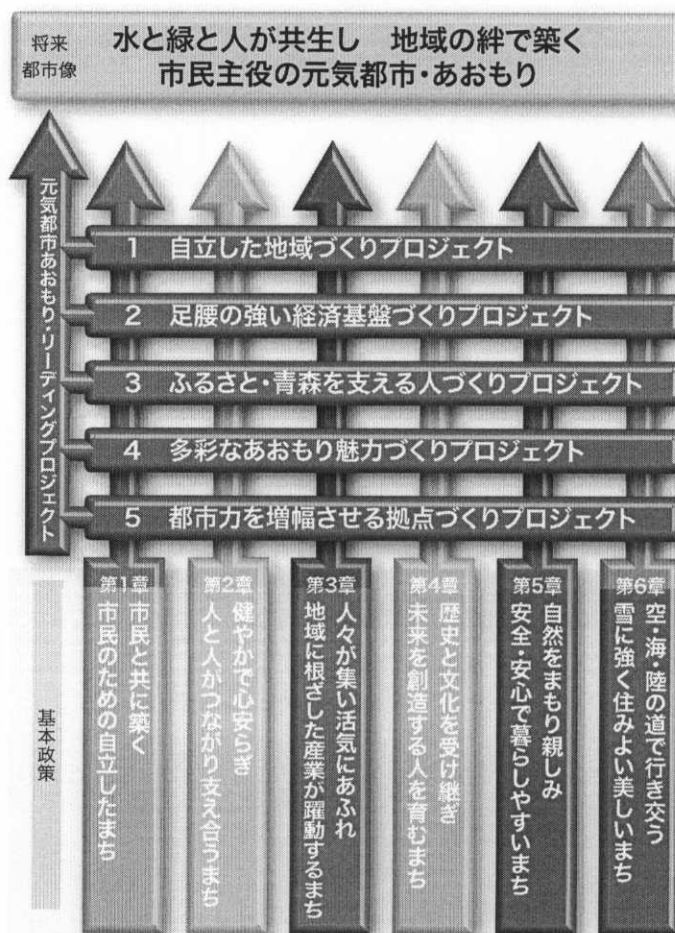
### 第3 元気都市あおもり・リーディングプロジェクト

#### 趣旨

本市のまちづくりに当たっては、前期基本計画に掲げたすべての施策について、相互に連携を図りながら総合的に取り組みますが、元気都市・あおもりの実現に向け、喫緊の課題などに的確に対応し、より力強く本計画を推進していくため、先導的な役割を果たす『元気都市あおもり・リーディングプロジェクト』を設定します。

本プロジェクトは、いわゆる重点プロジェクトとして、前期基本計画期間（平成23年度から平成27年度）において、部局や施策を越えて、短・中期的に集中的な取組みを推進するとともに、限られた行政資源の選択と集中といった観点から、進捗度の評価などを踏まえ、毎年度の予算編成において経営資源\*の重点配分を考慮するなど、前期基本計画期間内で一定の成果を上げることを目指します。

#### イメージ



#### 用語解説

\*【経営資源】

人材、財源、知識、技術力など。

## 5 都市力を増幅させる拠点づくりプロジェクト

### 目的

本プロジェクトは、北海道新幹線をはじめ、北陸新幹線や九州新幹線開業など新幹線時代における都市間競争に負けない選ばれる都市づくりに向け、本市の発展を牽引する4つの都市拠点（中心市街地地区、新青森駅周辺地区、操車場跡地地区、浪岡駅周辺地区）の機能を充実させることを目的としています。

### 戦略

#### 戦略1 都市拠点機能の充実

4つの都市拠点それぞれの役割に応じた能力の発揮に向け、交通結節点としての機能の充実を図るとともに、回遊性の向上など、交流機能の強化を通じて、にぎわいのある拠点づくりを進めます。

##### 【主な取組み】

（中心市街地地区）

- ・中心市街地地区のにぎわい創出
- ・中心市街地地区へのアクセス環境の向上
- ・回遊性の高い都市空間の創出 など

（新青森駅周辺地区）

- ・新青森駅周辺地区の利便性と快適性を高める環境づくり など

（操車場跡地地区）

- ・緑豊かな交流拠点の実現に向けた空間整備の推進 など

（浪岡駅周辺地区）

- ・浪岡駅周辺地区のにぎわい機能とホスピタリティ機能の充実
- ・交通拠点機能を活かした浪岡地区の魅力向上 など

#### 戦略2 利便性の高い都市内公共交通ネットワークの形成

中心市街地地区などの都市拠点と日常生活拠点間や、各日常生活拠点間などを、誰もが円滑に移動できる都市内交通ネットワークの形成に向け、利便性が高く、持続可能な公共交通体系の構築を進めます。

##### 【主な取組み】

- ・市民の誰もがわかりやすく、利用しやすいバス交通体系の構築
- ・各交通機関相互の乗継環境における利便性の向上
- ・青い森鉄道の都市内交通機関としての利便性の向上 など

### 関連施策

3-3-4	地域と一体となった商店街の形成	(P125)
3-5-2	観光資源の充実	(P133)
6-1-2	機能的でにぎわいのある都市拠点の形成	(P181)
6-2-2	緑豊かな美しい都市景観の形成	(P186)
6-4-2	都市内公共交通の充実	(P193)

## 第6章

空・海・陸の道で行き交う  
雪に強く住みよい美しいまち

都市・交通基盤分野



青森市立新城小学校4年 田中 夏幹さん

「ぼくらの未来の青森市」

「10年後の未来の青森市」 絵画コンクール 小学生の部 優秀賞  
(学校名、学年は平成21年度)

## 第1節 拠点の形成

### 現状と課題

- 本市は、国内はもとより国際航路を持つ青森空港をはじめ、東北新幹線をはじめとする各鉄道路線のほか、青森港や東北自動車道など、空路、海路、陸路の交通ネットワークが充実していることに加え、青森県の中央に位置するという地理的優位性から、140万人規模の人口を有する青函交流圏の中核としての役割を担っています。
- 特に、函館市とは「青森・函館ツインシティ」の盟約に基づく、文化・スポーツ・観光・経済などの幅広い分野で積極的な交流を展開しているほか、その他、国内では鹿児島県屋久島町、国外では大韓民国・平澤市をはじめとするさまざまな世界の都市との教育や文化などの交流を進めています。
- また、東北新幹線新青森駅開業に伴う社会的・経済的な波及効果を最大限に獲得するため、中心市街地地区をはじめ、新青森駅周辺地区、操車場跡地地区、浪岡駅周辺地区の各都市拠点における交通結節機能や交流機能の整備を進めてきました。
- 一方で、複雑化・多様化する市民ニーズに対し、地域において、きめ細かに対応していける環境づくりが求められているものの、人口減少・少子高齢化の進展などに伴い、日常生活拠点における地域コミュニティの希薄化などが懸念されています。

### 《広域交流拠点の状況》

- このような中で、東北新幹線新青森駅開業及び北海道新幹線開業による交流圏の拡大などの効果を活かしながら、広域交流拠点にふさわしい機能を発揮し、青函交流圏の一体的な発展を牽引する都市づくりを進めるとともに、新たな海外の都市との交流も視野に入れながら、国際交流活動の維持・発展を図り、本市の魅力と活力を高めていく必要があります。

### 《都市拠点の状況》

- 中心市街地地区については、各都市拠点や日常生活拠点とのアクセスの利便性を高めるほか、青森駅周辺地区におけるにぎわい機能の強化を図るとともに、ウォーターフロント地区と連続した魅力的かつ回遊性が高い空間を創出し、行政、商業、文化などの都市機能が集積した交流拠点として、本市はもとより県都の顔にふさわしい地区形成を進める必要があります。
- 新青森駅周辺地区については、中心市街地地区や国内外を結ぶ広域交通の拠点（駅・空港・港）とのアクセスの利便性を高めるとともに、青森らしい空間を創出し、県内他都市、道南地域とを結ぶ広域交流の玄関口としてふさわしい地区形成を進める必要があります。

■操車場跡地地区については、鉄道新駅などの交通施設整備を進めるとともに、地球環境に配慮した「青い森」を象徴する緑豊かな交流拠点として、低炭素型の先導的な都市環境を創出する地区形成を進める必要があります。

■浪岡駅周辺地区については、津軽地方の都市との近接性を活かし、広域交流の拠点としての機能を高めるとともに、浪岡地域における交通の利便性と快適性を高めるほか、にぎわい機能とホスピタリティ機能の充実を図り、津軽地方の玄関口としてふさわしい地区形成を進める必要があります。

### 《日常生活拠点の状況》

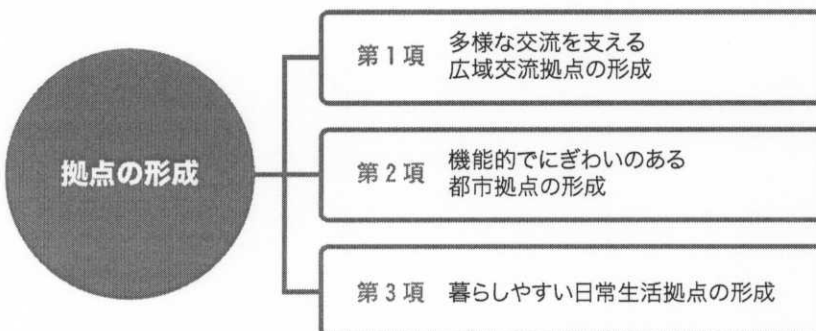
■歴史・文化など地域固有の特色を活かしながら、暮らしやすい日常生活の拠点づくりを進めていくため、既存ストックの活用を基本に、地域の実情やニーズに応じた生活環境の整備を進めるとともに、地域計画の作成を促進し、地域が主体となった特色あるまちづくりの形成を進める必要があります。

## 基本方向

青函交流圏の発展や国際化の推進などを通じて、国内外から多彩な人が行き交う広域交流拠点としての機能充実を図ります。

また、都市拠点の機能性を高めるとともに、地域色豊かな暮らしやすい日常生活拠点の形成を図るほか、港の持つ多面的機能を活かした魅力ある空間形成など、地域特性に応じた都市機能の配置を進めます。

## 施策の体系



## 第2項 機能的でにぎわいのある都市拠点の形成

### 主な取組み

#### 《中心市街地の地区形成》

- 公共交通の利便性向上や総合都市交通ターミナル機能の充実を図り、多様な交通手段による中心市街地地区へのアクセス環境の向上を図ります。
- 中心市街地活性化の先行プロジェクトとして青森駅周辺地区の一体的なまちづくりを推進するとともに、核的施設であるアウガの再生に向けた支援体制強化や再開発に向けた取組みなどを通じ、中心市街地のにぎわいの創出を図ります。
- 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸や、ねぶたの家ワ・ラッセ、青森県観光物産館アスパムなどが立地するウォーターフロント地区の連携を図りながら、快適な街歩きを楽しむことができる歩行者空間や交流機能の強化などを通じて、回遊性が高い空間を創出し、都市の顔として多様な来街ニーズを満たす地区形成を進めます。

#### 《新青森駅周辺の地区形成》

- 広域的な玄関口として、多様なアクセスに対応する交通結節機能を活かしたまちづくりを推進します。
- 新幹線利用客に青森らしさを印象付けるような空間を創出するとともに、観光情報センターを核とした、来街者のさまざまなニーズに対応できる、ホスピタリティ機能の充実を進めます。
- 石江土地区画整理事業の一般保留地をはじめとする、新青森駅周辺地区における土地利用については、本市の豊かな自然と文化とのつながりを表現できるよう配慮し、新幹線利用客や周辺住民の利便性と快適性の向上に向けた環境づくりを進めます。



青森駅周辺

第6章 空・海・陸の道で行き交う 雪に強く住みよい美しいまち  
第1節 拠点の形成

《操車場跡地の地区形成》

■ 県や民間事業者などと連携を図りながら、「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業実施方針」に基づく、緑豊かな交流拠点の実現に向けた空間整備を進めるとともに、交通結節点としての利便性向上に向けた新駅設置などの交通施設整備を進め、先導的な都市環境を創出する地区形成を図ります。

《浪岡駅周辺の地区形成》

- 浪岡地域交流施設あびねすを拠点として、浪岡地区のさまざまな情報の発信と、地域住民と来訪者の交流を進め、にぎわい機能とホスピタリティ機能の充実を図ります。
- 浪岡地区住民はもとより、弘前市や黒石市、五所川原市などの津軽方面の交通結節点としての利便性を確保するとともに、地区内の各拠点を結ぶ観光ルートの構築など、交通拠点機能を活かしたまちづくりを進め、浪岡地区の魅力向上を図ります。

目標とする指標

指標とその説明	基準値	目標値
<b>中心市街地の歩行者通行量<sup>※1</sup></b> 中心市街地の主要地点（14地点）での平日の歩行者数	48,010人 (平成22年度)	-
<b>浪岡地域交流施設の入館者数</b> 浪岡地域交流施設あびねすの入館者数	93,031人 <sup>※2</sup> (平成22年度)	157,000人

※1 平成23年度に策定する「新中心市街地活性化基本計画」の中で目標値を設定します。  
 ※2 平成23年1月12日現在（平成22年4月25日開館）



浪岡地域交流施設あびねす